

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1)

事業所番号	0172901779		
法人名	有限会社 パートナーステーション		
事業所名	グループホーム和が家 ななかまど		
所在地	旭川市春光台5条3丁目7-24		
自己評価作成日	平成29年7月24日	評価結果市町村受理日	平成29年10月31日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kan=true&JigyosyoCd=0172901779-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所 介保調査部		
所在地	札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階		
訪問調査日	平成29年8月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者が快適に生活を送って頂ける様にホーム内のスペースを状況に応じて工夫したり、室外でも花壇を整備したり、テントやベンチを設置し他の入居者様や地域の方と楽しんでいただいたり、ふれあいが出る様に配慮している。周囲は鷹栖の田園風景やしらかば並木を眺めることができ、自然豊かな高台で「ゆったりとした生活」を実現出来る様力を入れている。
また畑作りが出来る環境を整えるようにしている。
「和が家」が地域の中で連携・交流出来る様に、また家族との連携や意見を頂くことで「和が家の生活」がより良いものになるよう取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、旭川市内北方向にある高台の閑静な住宅地に位置した2階建て2ユニットのグループホームである。2階が法人本部事務所で、2階まで吹き抜けの天井が高く、1階真ん中の壁を境に左右対称の配置の2ユニットである。利用者や職員が日常的にユニット間を往来し交流しており、広くゆったりとしたホームで、高台なため、窓からの眺望もよい。隣接して、有料老人ホームと小規模多機能居宅介護があり、前庭は敷地程の広さで、テントやベンチが設置され、利用者が散歩や外気浴に利用している。前庭で行う納涼祭には150名程が参加し盛大な地域行事となっている。法人は理念にもあるように「家庭的な雰囲気でも自分らしい生活を穏やかに過ごせる和が家」を旨とし、徒歩圏内には小規模多機能型居宅介護のサテライトや地域交流テラス和が家も開設して、「安心して暮らせる支えあいの地域づくり」を目指している。また、地域包括支援センターや社会福祉協議会と連携したSOSネットワークの事務局を担ったり、一早く介護ロボットの試験的導入で、ITによるデータ管理も行うなど合理的な研究も進めており、地域の拠点となっている高齢者介護の事業所で今後も期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送りで読み上げたり会議の際に理念を意識したケアの話し合いをしている。	事業所の理念は、3年毎に見直しているが、今年は「現在のままでよい」とする職員の意見が多数であった。理念は会議の際に意味を検討したり、朝の申し送りで読み上げるなどし、事業案内にも掲載して、共有し、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃やお祭り等町内会の行事に出来る限り参加し交流している。	町内のお祭りや敬老会、清掃などの行事に参加している。事業所主催の納涼祭は、家族や地域の方、近隣の事業所など150人位が参加する盛大な地域の行事となっている。また、事業所には医科大生の実習や歌のボランティアなども来訪し、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	和が家として認知症カフェの開催に協力したり認知症サポーター養成講座に職員を派遣したりしている。また入居相談などで認知症介護のアドバイスも行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催しており、現状やサービス内容の報告を行い、意見を頂いている。また行事や食事、レクリエーション、避難訓練等を見ていただき、意見を頂いている。	運営推進会議は、家族や地域包括支援センター担当者、地域の方、消防設備会社の職員なども参加して、定期的開催し、運営状況の報告や避難訓練、食事の試食などを行い、意見を聞く機会となっており、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議は定期的開催して、議事録を作成し、事業所内でいつでも閲覧できるようにしているが、参加できない家族もいるため、議事録作成の際は、都度家族へも送付して、運営状況の報告を期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時に連絡を取り合い、協力関係を築いている。運営推進会議に地域包括支援センターの方に参加いただくなど互いに協力できる体制を築けるようにしている。	地域包括支援センターや社会福祉協議会などと連携し、春光台SOSネットワークの事務局を担っており、研修会や年1回の捜索の訓練を行うなど協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないよう注意を払い、身体拘束に関する研修にも参加、報告し資料の配布・回覧をしている。また身体拘束を疑われるものはその都度話し合い検討し、会議等で周知している。	身体拘束をしないケアの指針やマニュアルを整備し、外部研修会に職員を定期的に参加させ、事業所内では会議などで伝達講習を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、センサー等利用の際は、介護計画書に組み入れ同意を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加や検討事項・疑問が上がった際に会議等で周知している。家族にも意見を頂き防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修への参加や検討事項・疑問が上がった際に会議等で周知している。家族にも意見を頂き防止に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は不明な事がないかをお聞きし、契約に記載がないことでも具体的な事例からどのように対処しているか説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会に参加いただき、意見を頂ける機会を設けている。	月1回和が家新聞を発行し、行事など運営状況や利用者の生活状況も個別に記載し、家族へ送付して報告している。玄関には意見箱を設置し、意見を聞く用意をしている。また、運営推進会議や年2回家族会を開催し、家族からの意見を聞く機会となり、運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や面談を行い機会を設けている。	月1回全体会議やユニット会議、リーダー会議、管理者会議を定期的で開催して、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、代表者や施設長による個人面談を年数回実施して、職員の意見の反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	改善に向けての体制作りや環境整備に取り組み、個別の面談も行っている。運営指針や経営方針の説明も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実際の場を見たり、リーダーから聞き取りし職員の力量を把握して研修時には本人の希望と判断にて参加をすすめている。リーダーを通してトレーニング出来る様指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	研修や互いの活動、地域での活動に参加し交流を持ち、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	各ユニットのリーダーや部屋の担当者が中心になり、職員全員で本人の不安の解消と要望を聞けるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	各ユニットのリーダーや部屋の担当者が中心になり、電話や面会時に家族の不安の解消と要望を聞けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時に必要なサービスについて話を聞き、必要時には他のサービスについてもお話している。またモニタリングを行い、記録し必要な支援が発生したときにはいつでも変更できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々のできることを見極めできることをしていただくようにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状態の変化があればその都度連絡し、毎月の新聞でも生活の様子などの情報提供をしている。面会時には意見を頂いたりこちらからの提案を話したりしている。交流の場も年に数回、開催している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	その方のなじみの場所にドライブに出かけたり、なじみのある行事に出かけるようにしている。	利用者は殆ど地元出身なため、頻繁に来訪もある。お墓参りは家族同行だが、職員とドライブのついでに利用者の元の家に立ち寄るなど馴染みの場所への関係が途切れないように個別の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人にならないように間に入ったり声を掛けたり、入居者同士の関係性に配慮し座る位置を工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	過去に入居されていた事からの縁を大切にしながらもつながりを持って連絡をいただける方もいらっしゃるし、必要に応じ相談や支援を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段から雑談等で本人の言動に注目し耳を傾けるようにして介護計画書に反映出来る様にしている 毎月の会議でも検討している。	職員は、利用者ごとの担当者制としており、日常での気づきを申し送り時に口頭で共有し、会議でも検討して、介護計画書に反映している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からはじめに聞くようにしている、情報を得られるよう普段から情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを把握しその方にあった過ごし方を支援出来る様に努めている。体力や身体状況にあった支援を心掛けている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族との話し合いの場を作り、職員全員でモニタリングを行い、それぞれの意見を反映させ、現状に合わせた介護計画を作成している。	担当者が毎月モニタリングし、本人や家族の意見や要望を踏まえ、介護計画の原案を作成して、全体で検討し、利用者の現状に合わせた介護計画を作成している。尚、見直しは6ヶ月毎だが、退院時などは随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきを記録に残すようにしている。情報の共有は申し送りや暮らしの日記に記録するようにしている、また申し送りノートも活用するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方に必要な補助器具やサービス、介助方法を定期的に話し合い、本人・家族と共に職員全員で取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での行事や環境整備への参加、地域でボランティア活動をされている方に行事の時に来て頂いたりしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に関しては個々で自由に行っている。必要時は協力医療機関紹介しているが、本人・家族の希望のかかりつけ医を継続されている方もおられる。	従来からのかかりつけ医もあり、家族または職員が同行して受診している。協力医療機関の月2回の訪問診療があり、24時間体制の適切な医療支援が受けられる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の健康チェック時に看護師に報告している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は医師から説明を受けるようにしており、定期的に連絡をする様にしている、また退院時にも説明を受けるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	終末期には家族が納得のいくように話し合いの場を持ったり、医師と家族の話し合いの場を調整している。	重度化や終末期の場合の対応の指針を契約時に説明し同意を得ている。また、重度化した場合は、本人と家族の希望を尊重し理解を得られるよう説明し、打ち合わせしながら医師や看護師と連携して対応している。職員には経験に基づく資料を作成して実務研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者個々の身体状況・状態把握を行い、状態悪化時には主治医に指示を仰いでいる。応急手当の勉強会も不定期ではあるが全体会議等で行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、消防の方にアドバイスを頂いている。地域の方に協力して頂けるよう地域行事への参加等心掛けている。	消防署の指導の下、家族や町内会の協力により年2回避難訓練を実施している。緊急通報網や備蓄・備品も整備され、停電時の予備電源もあり、地域の避難先として旭川市に申請しており、地域との協力体制を築いている。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の性格や状態を見極め会話している。言葉遣いにも気を配るようにしている。その方のプライバシーに配慮したケアを心掛けている。	定期的に接遇の外部研修会に職員を参加させ、内部研修を行い、言葉使いやマナー、人格を尊重した対応方法を学びケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を出来るだけ聞くようにして、選択して頂ける様配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	出来るだけ希望にあわう形で日中の行動を決めていただいている。空いた時間には「なんかしないの」と声を掛けていただいたりして希望を聞きレクリエーションをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出や行事の時には服を選んでいただいたり、身だしなみに気を配っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お一人お一人の好き嫌いや食事形態を考慮し提供し、出来ることをして頂いている。	朝食は業者に委託し、昼と夕食は利用者の好みを考慮して、職員が手作りで家庭的な料理を工夫している。利用者も食材の皮むきや下準備など手伝っている。介護度により、外食は年1回となっているが、お菓子作りや流しソーメンなど楽しみな食事の工夫を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好き嫌いやその時の状態に合わせて食べられない時には違うものを提供している。水分に関しても好みに合わせて提供し、状態に合わせてトロミを使用したりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自らできる方は見守りにて頂き、介助が必要な方には歯ブラシや舌ブラシ、スポンジを使用して口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	その方にあわせ汚染が無い様に声掛けを行っている 全介助の方にはそのときの状態に合わせてトイレ誘導を行っている。	居室にトイレと洗面台があり、自立している利用者は、自ら居室で行っている。介助が必要な利用者は、記録簿により把握して、トイレでの自立した支援に向けて個々に沿った支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を提供したり食事のメニューに気をつけている。体操やレクリエーションも可能な時は行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	週2回入浴して頂いている。 希望も聞きその方に合わせた入浴方法を心掛けています。	浴室は、ユニットバスでリフト付きと大きめのタイルの浴室がある。介護度が重い利用者もリフトの使用で入浴が可能である。入浴は、週2回程度だが、希望があれば、適時に対応するよう個々に沿った支援をしている。浴室の窓からの眺望がいい。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の状態に合わせて休んでいただいている。夜間の入床時間に関しても希望を聞いたりその時の状態に合わせて休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しい薬が処方になった場合は処方を確認した上で服薬して頂いている。 服薬してからの状態経過を観察し主治医に報告している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることをして頂き役割を持っていただいている。 外出等で気分転換をしていただいたりレクリエーション等を楽しんでいただいている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望を聞き出かけるようにしている。 その方の喜ばれるところを考え出かけている。	事業所の前庭は、ホームの敷地程広く、日陰用テントやベンチが設置され、利用者は日常的に散歩や外気浴をしている。外出行事では、お花見や花フェスタ、山菜取り、リンゴ狩り、初詣や冬まつりなど季節を感じる多彩な支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方にはお金を持っていただいたり希望される方にはお小遣い程度のお金を持っていただくようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をしていただいたり、手紙を書いていただく企画をしたりしている。 本人宛の電話が着た際には取り次いでいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いやすい配置を心がけ、その時の状態に合わせ配置を換えられえようようにしている。 掲示物も季節感のある物を心掛けている。	共用空間は、2階建ての吹き抜けで、天井が高く清々しい感じである。採光や風通しもよく、高台にあるため、窓からの見晴らしがいい。壁を境にして、2ユニットが左右対称にあり、職員や利用者もユニット間で日常的に往来があり、共有スペースを広く活用して交流している。ゆったりとした寛ぎの空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各自が居心地の良い空間になるよう配慮し声を掛けたりしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみのものや大切なものを置いて頂ける様に、本人や家族と相談している。 温度調整や換気にも気をつけている。	居室内には、トイレと洗面台が設置され、プライバシーに配慮している。また、収納ロッカーや棚も設置しており、心遣いが感じられる。利用者が、使い慣れた家具や馴染みの物を持参して、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方のできることにあわせ物の配置を考えている。移動しやすいスペースにも配慮している。個人で出来ることやみんなで出来ることを見極めそれぞれが自立した生活を送れるように工夫している。		